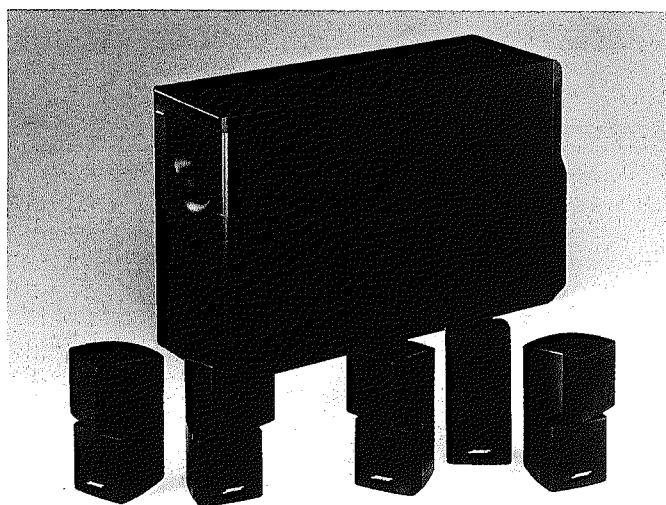
BOSE®

OWNER'S MANUAL

5チャンネルスピーカーシステム

AM-10Ⅱ

この度はAM-10Ⅱスピーカーシステムをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、必要なときにご覧になれるよう保管しておいてください。

取扱説明書

※説明の便宜上、イラストは原型と異なることがあります。

目　次

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。
以下の内容に反した使用により損害が発生した場合、当社は責任を負いかねます。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

 注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

 △記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

 ⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。（左図の場合は分解禁止を意味します）

 ●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

警告		●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。
		●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
		●スピーカーコードを熱器具の近くや直射日光のあたるところには近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災の原因となります。
		●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
		●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
		●熱器具の近くや直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。
		●この製品は、一般屋内用器具です。落下、脱落、焼損、火傷、火災、感電、腐食、変形などの原因となりますので、以下の場所ではご使用にならないでください。 ・振動や衝撃の影響を受けるところ ・腐食性ガスや可燃性ガス、粉じんの影響を受けるところ ・サウナ風呂などの温度が高くなるところ ・湿度の高いところ
		●シンナーやベンジンなどの揮発性の薬品やクレンザーなどは、変色や傷を付ける原因となりますので使用しないでください。

注意		●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
		●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業時のけがや事故には十分ご注意ください。
		●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
		●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
		●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。 他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。

特　長

●あらゆるAVアンプと組み合わせできる5チャンネルスピーカーシステム

このスピーカーシステムはドルビー・プロロジック、ドルビー・デジタル・サラウンドAC-3方式、dts方式を含むあらゆるサラウンド方式に対応するスピーカーシステムとして開発されました。

※Dolbyやドルビー、DD の記号はドルビー・ラボラトリーズ・ライセンシング・コーポレーションの登録商標です。
※dtsはデジタルシアターシステムズ社の登録商標です。

●新開発3ユニット4チャンバーのアクースティマス・ベースモジュールとベースパワーサミング技術

音楽再生性能を損なうことなくあらゆる音源の再生を行うために、電気的な低域の合成を極力排除し、また、多数のウーファーを使用する低音の干渉の悪影響を無くするために、フロント用低域再生用ウーファーとサラウンド用低域再生用ウーファーを1本のアクースティマス・ベースモジュールに受け持たせることに成功しました。その結果スピーカー間の相互の位相干渉を解消するとともに、ウーファーとしては非常に小さいサイズでありながら、映画などのソフト特有の豊かで迫力ある低音を再生します。この新しいアクースティマス・ベースモジュールは、3本のウーファーユニットと4つの部屋をもち、電気的な手法は使わず音響的に低音を合成しています。

ご使用になるアンプについて

このスピーカーシステムには、5チャンネル分の入力があります。通常のステレオアンプでは、このシステムの本来の性能が発揮されませんので、5チャンネルの出力端子を装備しているAVアンプなどと組み合わせてご使用ください。

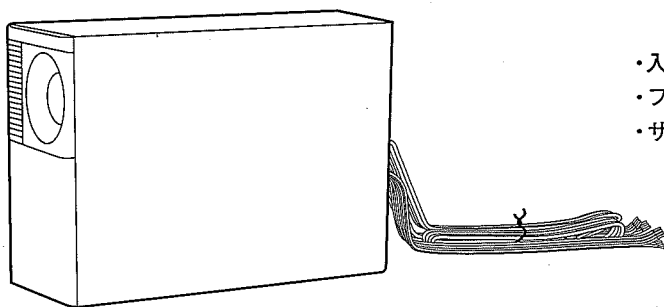
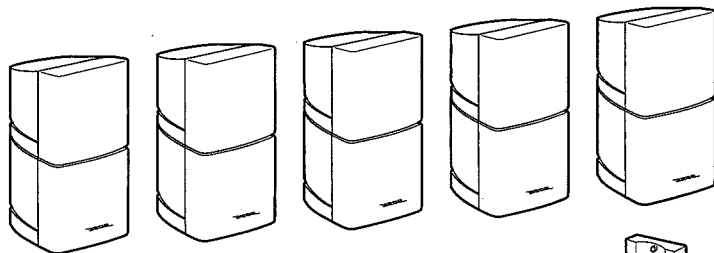
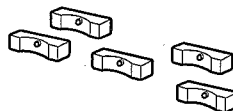
開梱時のご注意

◆付属品を確認してください◆

もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買上になった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

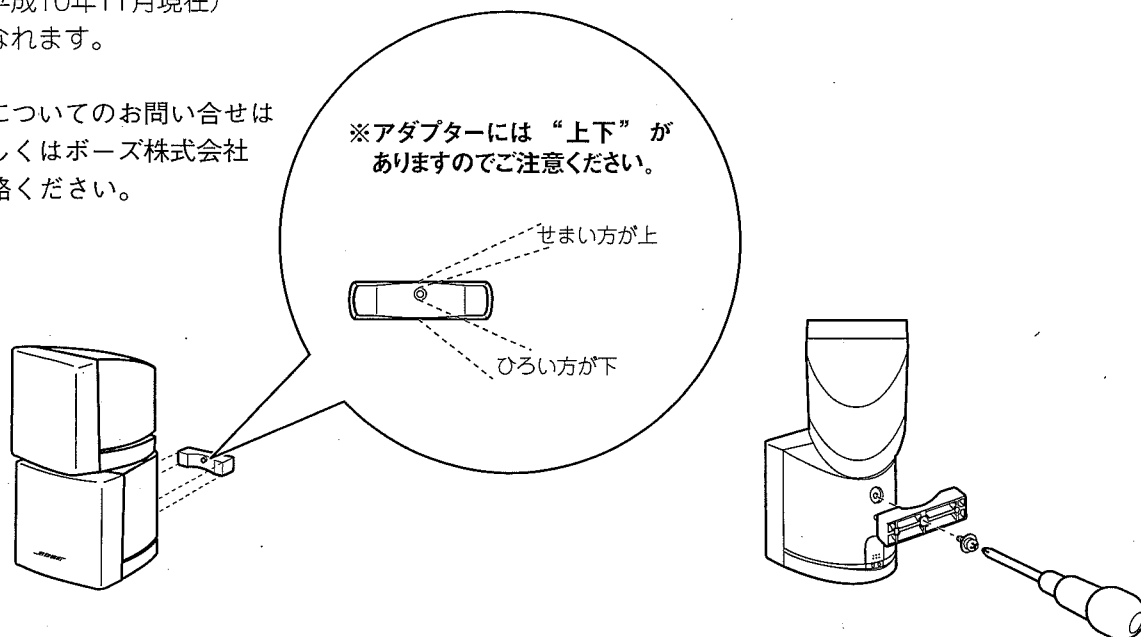
⚠警告

●AM-10Ⅱのベースモジュール部は、約11kgあります。移動する際に、腰を痛めたりしないように十分注意して持ち上げてください。

●窒息する危険がないように、スピーカーを包んでいたビニール袋は子供の手の届かない場所に保管してください。

ブラケット用アダプターの使い方

付属のアダプターを使用することで、101シリーズ、100シリーズ用のスピーカー取付金具（ただし一部の金具を除く、平成10年11月現在）
をご使用になれます。

※対応金具についてのお問い合せは
販売店もしくはボーズ株式会社
までご連絡ください。

図のようにサテライトスピーカーにアダプターを取り付けてください。

スピーカーの防磁について

※サテライトスピーカーの防磁について
サテライトスピーカーは、キャンセリング・マグネット方式とシールドカンを併用した低磁束漏洩型になっていますのでテレビやモニターなどに近づけても、画面に色ムラなど影響が生じにくくなっていますが、まれに画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。

※ベースモジュールの防磁について
ベースモジュール内部のスピーカーは、防磁処理が施されていませんので、テレビやモニターなどに近づけないでください。近づけると、画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分（約60cm以上）離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。

スピーカーのお手入れについて

キャビネットの汚れを落とす場合

●汚れやホコリは、柔らかい布でから拭きしてください。から拭きをする場合は、傷を付けないようにご注意ください。

●汚れがひどいときには、中性洗剤を薄めた水にやわらかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、やわらかい布でから拭きしてください。

●アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品はキャビネットの表面をいためますので、ご使用にならないでください。
また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

システムの設置位置を選ぶ

◆AM-10Ⅱスピーカーシステムの設置について◆

●画面の動作や会話はセンタースピーカーが中心となって処理します。センタースピーカーから出るサウンドは画面の中から出てくるようなるべく画面に近い中心線上に設置することをおすすめします。

●フロントの左側と右側のスピーカーで演出されるサラウンドイメージには広がり感があり部屋のどこにいても自然に聞こえるように設置します。

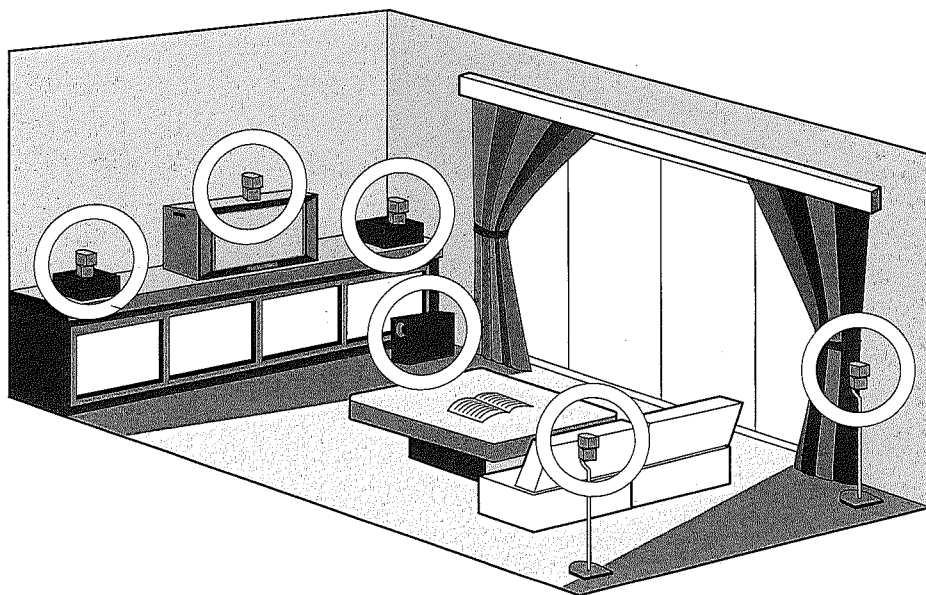
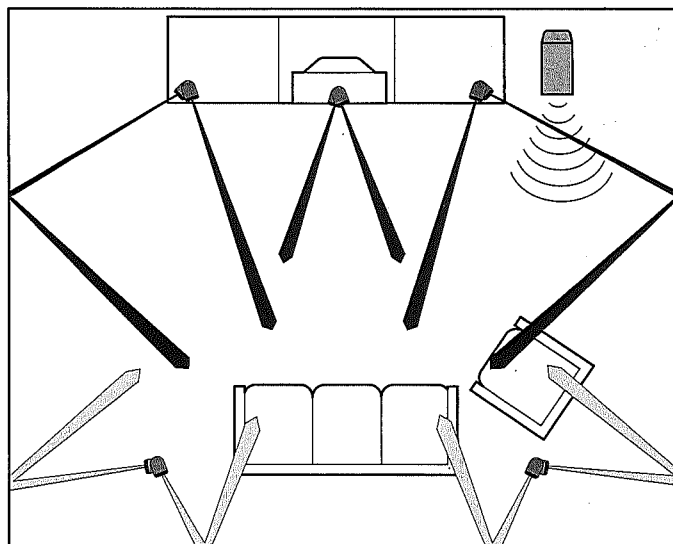
●サラウンド・スピーカーは、見ている人の映像イメージを広げる細かなサウンドや効果音を再生し、見ている人に臨場感を与えます。直接後ろからではなく両側からサウンドが耳に届くような位置にサラウンド・スピーカーを置くといいでしょう。

●フロントスピーカー、サラウンド・スピーカーとも左右は、すべてリスナーが画面に向いた状態が基準になります。

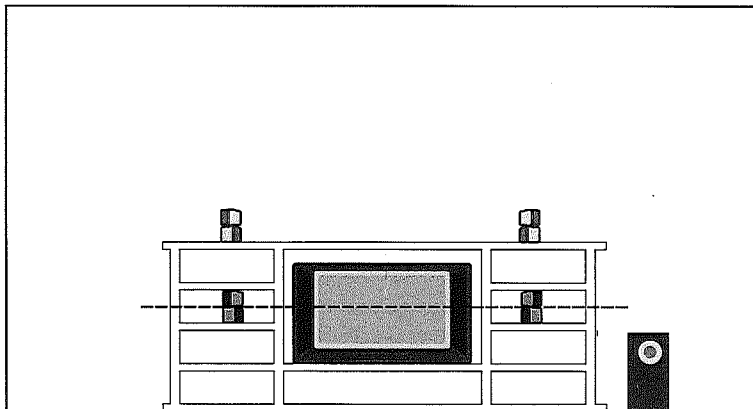
●サテライトスピーカーはすべて低磁束漏洩タイプです。テレビやモニターなどの画面の近くに置いても、画面への影響は非常に起きにくくなっています。

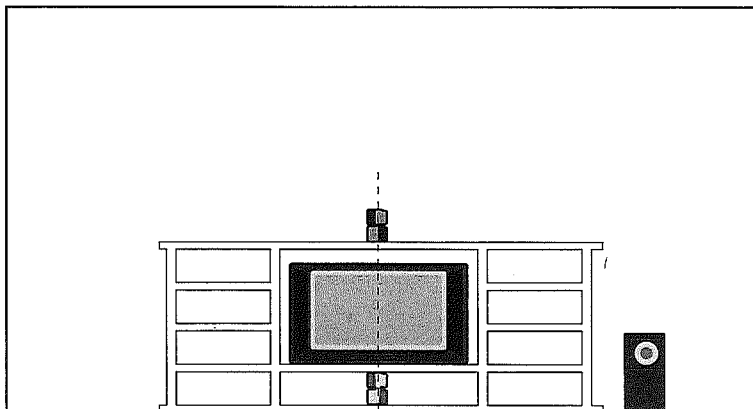
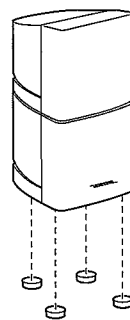
●ベースモジュールは防磁の処理はしていませんので、画面から 約60cm以上離して設置することをおすすめします。また、音響的には、部屋の前方(画面側)に設置したほうが良い結果が得られます。

各スピーカーの設置位置について

これらの設置例は、あくまでも推奨設置例ですので、必ず以下のように設置しなければならないというものではありません。
部屋の状況や、お客さまの好みに合わせていろいろなセッティングをお試しください。

◆スピーカーの設置例◆

◆フロントLch(左側)とフロントRch(右側)サテライトスピーカー◆

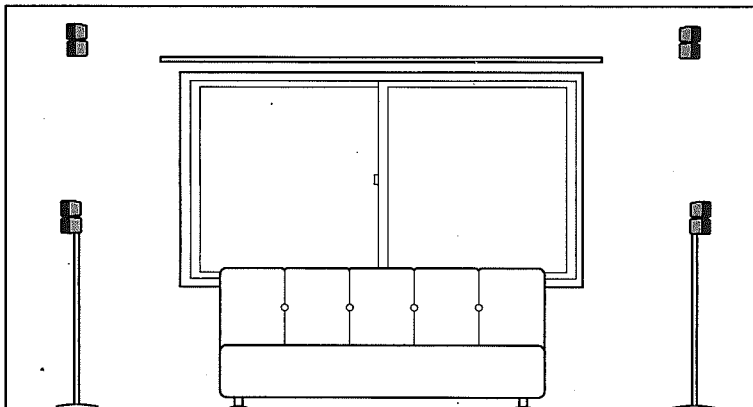
・画面の両脇にスピーカーどうしを約2m～5m離すか、テレビの端から10～20cm離れるように設置します。

・音像と映像のバランスを取るために、画面中央と一直線上にフロントスピーカーを置くことをおすすめします。
画面の上端の高さに置くこともできます。

・サテライトスピーカー１台をセンタースピーカーとしてテレビの上または下に置きます。下に置く場合はサテライトスピーカーに直接テレビの重量がかからないようにしてください。

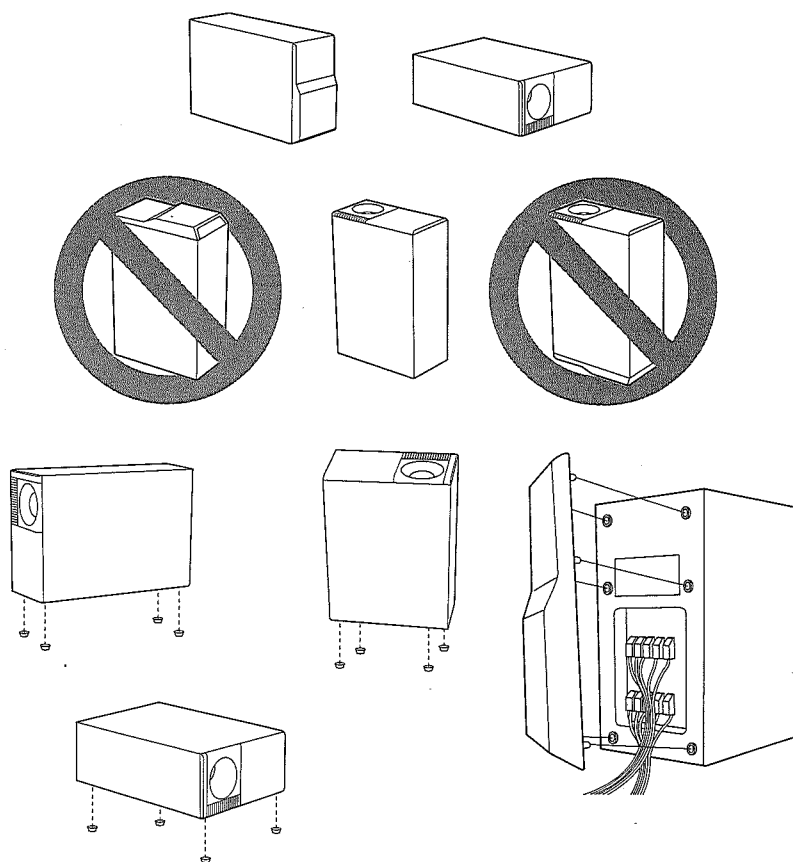
・センタースピーカーを画面の上下にできるだけ画面に近い位置に置くと、会話が画面上から聞こえやすくなります。

⚠注意
テレビの上にセンタースピーカーを配置する場合、安定性を良くするためにセンタースピーカー用ゴム足（小）を使用してください。

◆サラウンドLch(左側)とサラウンドRch(右側)サテライトスピーカー◆

サラウンドの音声は、リスナーの直接後ろ側からでなく、壁の反射などを使って両側から届くよう設置することをおすすめします。

・座席の横か後ろに、スピーカーどうしをできるだけ離して置きます。

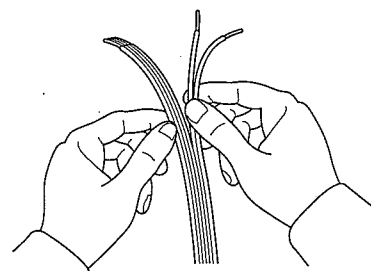
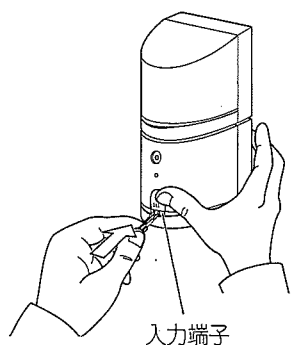
・これらのスピーカーをリスナーの真後ろに置きたい場合は、耳に直接音声が届かないように、高い位置に置くか、リスナーに向けないようにします。
ただし、大きな音を出せないようなところでは直接向けた方がよい場合があります。

◆アクースティマス・ベースモジュールの設置◆

部屋の中では ベースモジュールをテレビと同じ側に置くようおすすめします。その際、テレビ画面に磁気の影響が出なくなるまで離します(ベースモジュールをテレビから60cm以上離すことをおすすめします)。

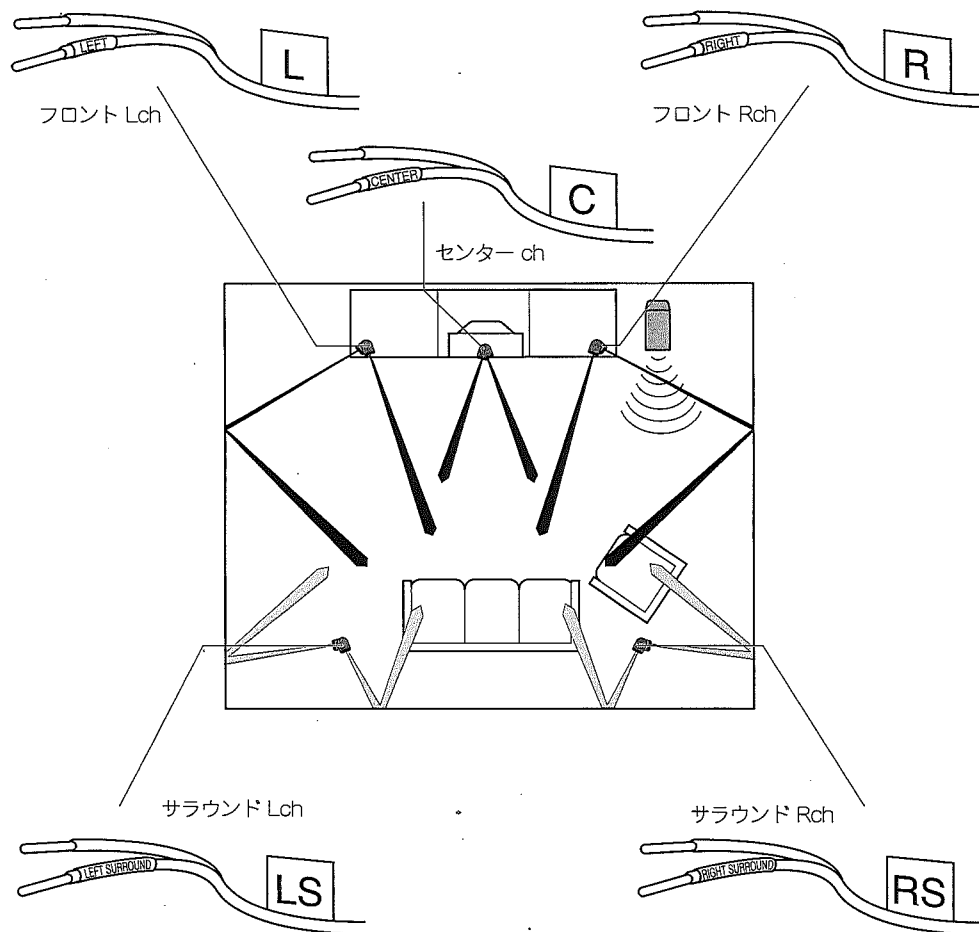
- ベースモジュールを家具の後ろや下に隠すことはできますが、開口部を塞がないようにしてください。開口部と他の面との間が最低5cm以上離れるようにしてください。
- 開口部を壁の方へ向けると、低音の量が増します。また、壁と反対に向ける場合は、低音の量が減少します。
- ベースモジュールは立てたり横にすることができます。
- ベースモジュールの置き場所を決めたら、付属のベースモジュール用ゴム足(大)を底面に取り付け、安定させます。
- 特にケーブル接続部分を下にして立てる場合は、カバーを外します。ベースモジュール用ゴム足(大)を底面に取り付け、安定させます。特にベースモジュールの接続側を下にして立てるときには、このゴムの足がケーブル接続部分を保護しますので、必ず取り付けてください。

スピーカーケーブルについて

接続が簡単に行えるように専用のコネクターがついたスピーカーケーブルが付属されています。フロントスピーカー用のケーブル、サラウンドスピーカー用のケーブル、AVアンプとの接続のためのケーブルをそれぞれまとめてリボン状にしてあります。このリボン状のケーブルは、必要に応じて裂くことができます。

それぞれのスピーカーケーブルには、専用RCAコネクターが付いています。さらにケーブルのベースモジュール側の専用コネクター部分には、L、R、C、LS、RS と表記されています。

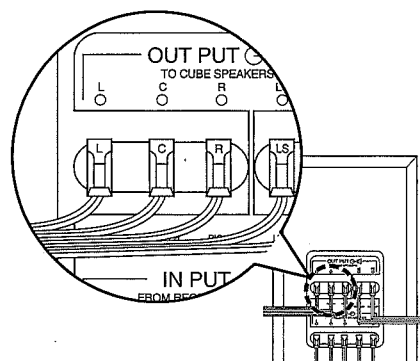
ケーブルの分離のしかた

◆サテライトスピーカーへのケーブル接続の方法◆

図のように入力端子の上の部分を指で押すとケーブルを差し込めるようになります。指をはずすとケーブルが固定されます。

スピーカーの接続について

注意	付属のケーブルを延長するのにオーディオ用RCAピンケーブルを使用しないでください。 音質的におすすめできません。
⚠注意	AVアンプの出力端子と、サテライトスピーカーを接続しないでください。サテライトスピーカーは必ずベースモジュールへ接続し、ベースモジュールからAVアンプに接続してください。

◆フロント側（Lch、センター、Rch）サテライトスピーカーとベースモジュールを接続します。◆

長さ6mの3対のスピーカー出力ケーブルを使用して、ベースモジュールとフロント側サテライトスピーカーを接続します。

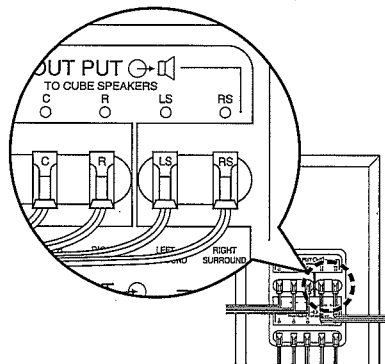
1. ベースモジュール側に専用コネクターが間違いなく奥まで差し込まれていることを確認します。間違いがあったり、外れかかっていたり、抜けていたりした場合は、コネクターに刻印されている文字（L、C、R）をベースモジュールのOUT PUT側の端子の文字に合わせて、しっかり差し込んでください。
2. ケーブルに付いているタグまたは赤いスリーブの文字をよく見て、サテライトスピーカーの入力端子に接続します。

   a. タグのLマーク、または赤いスリーブにLEFTと書かれているケーブルを、サテライトスピーカーの入力端子に接続します。このケーブルを接続したサテライトスピーカーがフロントLch用になります。
   b. タグのCマーク、または赤いスリーブにCENTERと書かれているケーブルを、サテライトスピーカーの入力端子に接続します。このケーブルを接続したサテライトスピーカーがセンター用になります。
   c. タグのRマーク、または赤いスリーブにRIGHTと書かれているケーブルを、サテライトスピーカーの入力端子に接続します。このケーブルを接続したサテライトスピーカーがフロントRch用になります。

◆サラウンド側サテライトスピーカーとベースモジュールを接続します。◆

長さ15mの2対のスピーカー出力ケーブルを使用して、ベースモジュールとサラウンド側サテライトスピーカーを接続します。

1. ベースモジュール側に専用コネクターが、間違いなく奥まで差し込まれていることを確認します。間違いがあったり、外れかかっていたり、抜けていたりした場合は、コネクターに刻印されている文字（LS、RS）をベースモジュールのOUT PUT側の端子の文字に合わせて、しっかり差し込んでください。
2. ケーブルに付いているタグまたは赤いスリーブの文字をよく見て、サテライトスピーカーの入力端子に接続します。

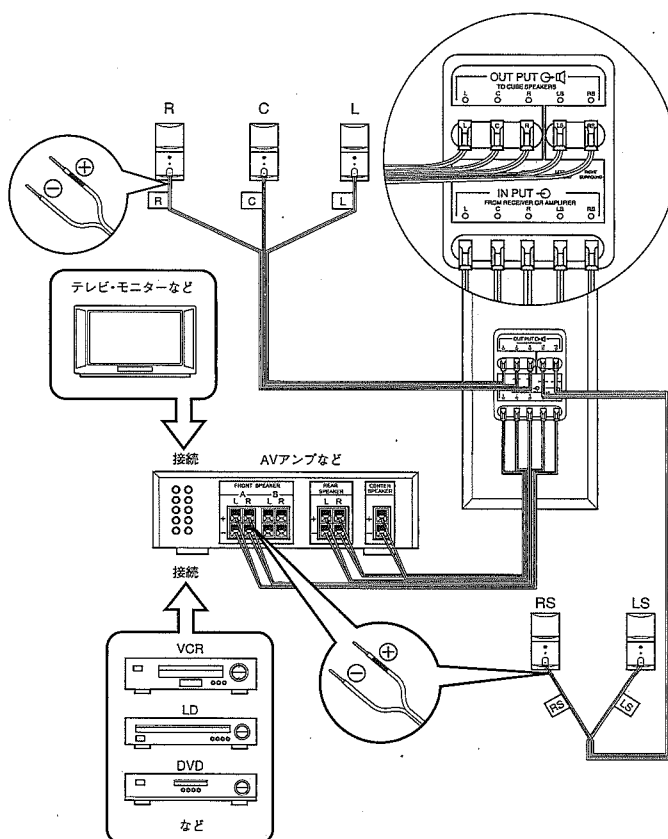
   a. タグのLSマーク、または赤いスリーブにLEFT SURROUNDと書かれているケーブルを、サテライトスピーカーの入力端子に接続します。このケーブルを接続したサテライトスピーカーがサラウンドLch用になります。

   b. タグのRSマーク、または赤いスリーブにRIGHT SURROUNDと書かれているケーブルを、サテライトスピーカーの入力端子に接続します。このケーブルを接続したサテライトスピーカーがサラウンドRch用になります。

◆ベースモジュールとAVアンプを接続します◆

長さ6mの5対の入力スピーカーケーブルを使用して、ベースモジュールをご使用のAVアンプへ接続します。

1. スピーカーケーブルのラベルとAVアンプのスピーカー出力端子とを合わせて接続します。そのとき、スピーカーケーブルの極性（プラス、マイナス）とアンプの出力端子の極性を間違えないように十分気をつけてください。極性を間違えると、低音がほとんどでなくなる場合があります。スピーカーケーブルの極性は、ケーブルに書かれている文字を見るか、赤いスリーブが付いているほうが⊕になります。

   a. Lのスピーカーケーブルを AVアンプのフロント(メイン)Lチャンネルスピーカー出力端子へ接続します。
   b. Cのスピーカーケーブルを AVアンプの中央(センター)スピーカーの出力端子へ接続します。
   c. Rのスピーカーケーブルを AVアンプのフロント(メイン)Rチャンネルスピーカー出力端子へ接続します。
   d. LSのスピーカーケーブルを AVアンプのサラウンド(後側)Lチャンネルスピーカー出力端子へ接続します。
   e. RSのスピーカーケーブルを AVアンプのサラウンド(後側)Rチャンネルスピーカー出力端子へ接続します。

2. ベースモジュールの入力ジャックに、専用のRCAコネクター全部がしっかりと挿入されていることを確認します。

◆接続の確認をします◆

●AVアンプ、アクースティマス・ベースモジュール、サテライトスピーカーの接続全部をもう一度確認してください。部屋のスピーカーの配置に従い、スピーカーケーブルのコネクターがすべて適切な端子に接続されていることを確認します。

●AVアンプと接続しているケーブルの極性(⊕、⊖)に間違いがないかを確認してください。

⚠注意　AVアンプが破損する可能性がありますから、ケーブルのショートには、十分ご注意ください。

●接続が完了したらベースモジュール端子カバーを取り付けてください。

AVアンプを使用するときの注意

◆低音および高音の調節◆

ご使用になる部屋の特性によって高音と低音の調節をする必要があります。たとえば、布製の家具や床全体に敷き詰めたカーペットあるいは厚いドレープ・カーテンなどがある場合、高音が吸収される可能性があり、スピーカー・システムの低音が強調されて聞こえる可能性があります。また、フローリングや大理石などを使用した床や壁、堅い表面の家具の場合は、高域成分が多くなり過ぎる可能性があります。高音と低音の調節が必要な場合は、スピーカーから再生される音を聞きながら、AVアンプの音質調整機能を使用して調節してください。

◆センタースピーカーの音質調整について◆

5本すべてのサテライトスピーカーは全く同じものなのでセンタースピーカーの音質調整は必要ありません。

◆AVアンプのサラウンド諸設定をしてください◆

サラウンド再生を行う場合必ずAVアンプの設定を行う必要があります。サラウンド・モードにした後、設定を行います。

◆AVアンプがドルビー・プロロジックの場合◆

・サラウンドスピーカーとフロントスピーカーの音量バランスをとります。
・サラウンドスピーカーの遅延時間（ディレータイム）を調整します。
・センタースピーカーの設定はセンタースピーカーを使用するモードに設定します。

◆AVアンプがドルビー・デジタル(AC-3)、dts対応の場合◆

・サラウンドスピーカーとフロントスピーカーの音量バランスをとります。
・サラウンドスピーカーの遅延時間を調整します。
・フロントスピーカーとセンタースピーカーの音質調節を行ないます。
・各チャンネルのスピーカーサイズの設定をおこないます。チャンネルごとのスピーカーの設定は、次ページの表を参考にしてください。
・サテライトスピーカーはフルレンジのスピーカーとして働きますので、「Large（大）」にセットします。
・センターのスピーカーだけは、「Small（小）」あるいは、「Nomal（小）」に設定します。
・サブウーファーはオフ（未使用）にします。
・LFE（低域効果音）をオンにし、クロスオーバー周波数が設定できるものは、200Hzに設定します。

ただし、ご使用のAVアンプのメーカーやモデルによって、調整方法や、調整内容が違いますので、くわしくは、お手持ちのAVアンプの取扱説明書をご参照ください。

スピーカー	AVアンプの設定
フロントLch（左側）およびRch（右側）（メイン）	Large（大）
中央（センター）	Small（小）/Nomal（小）
サラウンドLch（左側）およびRch（右側）	Large（大）
サブウーファー	OFF（オフ）（未使用）
LFE（低域効果音）	ON（オン）
クロスオーバー周波数（設定できるものは）	200 Hz

※DoblyやドルビーD̲D の記号はドルビー・ラボラトリーズ・ライセンシング・コーポレーションの登録商標です。
※dtsはデジタルシアターシステムズ社の登録商標です。

故障かな？と思ったら

AM-10Ⅱスピーカーシステムに問題がある場合は、一度AVアンプの電源を切り、以下の解決方法を試してみてください。

問　題	解決方法
システムがまったく働かない	・AVアンプを含め、AVアンプに接続されている音源（ビデオ、CD、チューナー）の機器の電源が入っているかを確認する。 ・AVアンプで適切な音源を選択しているか確認する。
音が出ない	・スピーカーの接続を点検する。 ・各機器の電源が入っているか確認する。 ・アンプの音量を上げる。 ・ヘッドホン/イヤホンが差し込まれていないか確認する。
音が歪む	・スピーカーのケーブルが破損していないか確認する。 ・AVアンプに入力信号のレベル調整機能がある場合は、入力レベルの調整をする。
低音が出ない	・AVアンプのスピーカー出力端子の極性とスピーカーケーブルの極性が間違いないことを確認する。 ・AVアンプの各種設定が適切であるか確認する。
低音が少なかったり、大きすぎる	・ベースモジュールを壁またはコーナーに近づけると低音が大きくなり、壁またはコーナーから離すと低音が小さくなるというバウンダリー効果（境界面効果）を使って調整する。 ・AVアンプの音質調整機能を使って調節する。
サラウンド効果が余りない	・AVアンプをドルビー・プロロジックモードで使用している場合、サラウンド・モードになっているかどうか点検する。 ・ドルビー・デジタルAC-3またはdtsサラウンドの場合は、AVアンプ設定(各種設定および、サラウンド側の音量)が適切であるかどうか、ドルビー・デジタルAC-3またはdtsがオンになっているかどうか確認する。また、音源(レーザー・ディスク、DVD)や再生しているソフトがドルビー・デジタルAC-3またはdts用に対応していることを確認する。

故障の場合のお問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせは、ボーズ株式会社、修理担当部門 ☎ 03-5489-1056、
製品等のお問い合わせは、ボーズ株式会社、インフォメーションセンター ☎ 03-5489-0955
までご連絡ください。

仕　様

AM-10Ⅱスピーカーシステム

●総合

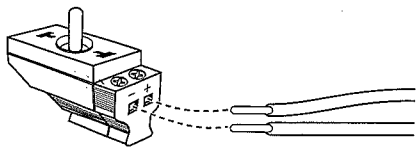
方　　　式	アクースティマス
インピーダンス	6Ω
定格入力	フロントL、R／センター：100W（rms連続IEC-268-5） サラウンドL、R：50W（rms連続IEC-268-5）
付属品	ゴム足：大、小各4個 接続ケーブル：入力スピーカーケーブル　6m フロントスピーカー出力ケーブル　6m サラウンドスピーカー出力ケーブル　15m ベースモジュール端子カバー：1個 ブラケット用アダプター：5個 アダプター用ネジ：5個

●サテライトスピーカー

ユニット	6.0cmドライバー×2(1本)
低磁束漏洩	キャンセリング·マグネットおよびシールドカン併用方式
サイズ	78(W)×157（H)×104（D)mm
重量	1.1 kg(1本)

●アクースティマス・ベースモジュール

ユニット	13cmドライバー×2、13cmデュアルボイスコイルドライバー×1
サイズ	584（W)× 358（H)× 192（D)mm
重量	11.0 kg

付属のスピーカーケーブルが使用できない場合や長さが合わない場合は、ケーブルアダプター「AC-1」1セット5個入りで1000円（税込み）を用意しております(2mm²までのケーブルが使えます)。AC-1は販売店では扱っておりません。ご希望の場合は下記要領にしたがって直接ボーズ株式会社までお申し込みください。

お申し込みは封書でおねがいします。
その際必ず、お客様の郵便番号、住所、氏名、電話番号、セット数を明記の上、欲しいセット数に1000円を掛けた金額分の郵便切手を同封してお申し込みください。

申し込み送り先
〒206-0035
東京都多摩市唐木田 1-53-9
唐木田センタービル
ボーズ・サービスセンター株式会社
『AC-1』申し込み係
TEL042-357-5250

保　証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-3 渋谷YTビル TEL 03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1136
98-11-0.2K-A-1(I-M)